

～輝きの子育て～

大人だけでなく、子どもも本離れ

大人だけでなく、子どもも本離れ？本を読まない人が増えるなかで皆さんは本を読んでいますか？文化庁による「国語に関する世論調査（令和5年度）」によると、1ヶ月に1冊も本（電子書籍を含む）を読まない人の割合が6割を超えたそうです。また読書時間が減っている人も多く、特に10代や20代は「情報機器（携帯電話、スマートフォン、タブレット、パソコンゲーム機など）で時間がとられる」ことが理由としてあげられています。

では乳幼児ではどうでしょうか。小さい子どもにも読書離れが見られるのでしょうか。子どもたちにとっての読書とは、絵本を読むことです。

ベネッセ教育研究所の「幼児の生活アンケート」によると、家庭で絵本を読む頻度は、1995年～2015年では「ほとんど毎日」「週に3日～4日」を合わせて7割を超えていました。ですが2022年では6割弱という結果でした。つまり幼い子どもでも読書離れが進んでいるのです。5人に1人は、家庭で日常的に絵本に触れる機会がほとんどないこととなります。この背景には、大人と同様に、スマホやタブレット端末の使用の増加があります。また大人が本に触れる機会がすくないことも影響していると考えられます。

先日、電車の中で見た光景です。バギーに乗せられた乳児がグズリ始めました。母親は携帯を見ていたのですが、その時、別の携帯をサッとその子に渡し、又自分は携帯に目がいき何事もなかったかの様子でした。その子は携帯をじっと見てだまってしまいました。

絵本の魅力に触れてほしい

これまでの研究では、乳幼児期の絵本の読み聞かせが、子どもの言語発達や認知発達に及ぼすプラスの効果や、子どもの頃の読書活動が大人になってからの自己肯定感に繋がるなど、子ども時代に絵本や本に触れることのよい面が多く報告されています。スマホやタブレットとの接触が増えている現代において、スマホと絵本のどちらが発達によいのか、研究はこれからで、まだ明らかになっていません。ですが「絵本の魅力」を多くの子どもや親に知ってほしいと思います。

1歳を過ぎると簡単なストーリーが理解できます。テレビやビデオに意識をとわれすぎないように前頭葉の活性化に役立つ絵本を読み聞かせる習慣をつけて頂きたいと思います。人の声を聞く習慣、聞き耳を立てて聞く習慣が言葉の数（語彙）を増やす言語能力、思考力を育てることにもつながります。保育や教育の現場でも、絵本との“出会い”を大切にしたいと思います。

絵本を子どものペースで読むことで、子どもに絵本の世界を広げていくことができます。繰り返し読んでもらったり、自分でも読むことで、お気に入りの絵本ができます。皆さんが子どもの頃のお気に入りだった絵本を思い出して、ぜひお子さんと一緒に読んでみてください。



懐かしい絵本

いっすんぼうし うらしまたろう かさじぞう したきりすずめ
ももたろう かちかちやま 三枚のお札 おむすびころりん
ないたあかおに 三匹のこぶた

片野 英子

小雑誌「倫風」佐久間路子氏より 参照